



岐阜北週報

11月 ローターリー財団月間

□ 題 字	原尾 勝	□ 会 長	原尾 勝	
□ 例 会	毎週水曜	□ 副会長	河村 訓陸	2013-2014
□ 会 場	岐阜都ホテル	□ 幹 事	安藤 武司	No.1515
		会報委員長	前田 吉彦	13.11.20発行

前回の記録	本日の予定	次回の予定
第 1514 回 例会 11/13(水) クラブフォーラム (6) 100万\$ 担当：社会奉仕委員会	第 1515 回 例会 11/20(水) 卓話 (2) 100万\$ 担当：山口・岡田 (一)	第 1516 回 例会 11/27(水) バス例会 クラブフォーラム (7) 担当：会長・幹事

会長挨拶



皆さん、こんにちは！

今週に入ってから、朝晩真冬の寒さとなり、本当にびっくりしております。紅葉も一気に色づき始めてとても綺麗ですが朝起きるのがちょっと辛くて困っています。

第32期も11月に入り、丁度三分の一が過ぎました。当クラブの目標は、会員純増2名と親睦の和を広める事をメインにやっていますが会員増強においては、水野さん、臼井さんの2名の新会員が加わり、早くも純増2名を達成する事が出来ました。只、これは、皆さん会員が誰も辞めない事が条件ですので宜しくお願い致します。これもクラブの仲間である皆様の御協力、お力添えがあつての事ですので、本当に感謝しております。ここで気を緩めず、これからも会員増強にまい進して行きたいと考えております。

会長挨拶 続き

もう一つ、皆様にお願ひがあります。皆さんは、其々の委員会に所属されており、その委員会が行う行事等の職務を果たして戴くのが使命です。特に委員長さんには、リーダーシップを発揮して戴いて、自分の仕事と同じ位、重要である事を肝に銘じてやって戴きたいと思っております。でなければロータリー活動が成り立たなくなりますので大変だとは思いますが充分込み置き戴いてお願いしたいと思います。今期、あと三分の二御座います。皆様のお力添えを戴いて楽しいクラブ活動にしていく所存ですので宜しくお願い致します。有りがとう御座いました。

出席報告

会員数：33名
出席数：23/33名
出席率：69.70%
欠席者：10名（出席免除2名 75.76%）

ニコニコBOX (敬称略)

若山 和正、辻 博、早川 悟史、林 隆行
：山口さん黄綬褒章おめでとうございます。
臼井 毅子：これからよろしくお願ひします。
山口さんおめでとうございます。

幹事報告事項（敬称略）

・報告事項

- 11月23日
岐阜北RCカップ 4年生表彰式
則武小学校と網代小学校で開催
14:00終了予定
- 11月20日ABグループ研修会セミナー
場所 都ホテル
17:30受付
17:50食事
18:20点鐘
20:30終了

例会行事（敬称略）

クラブフォーラム（6）

社会奉仕委員会 担当：西垣 康紀 委員長



当クラブも今年に入り3名の新人が加入したこと及び、私もクラブへの加入歴が浅いのに社会奉仕委員長の職についてことから、ロータリーが目指す社会奉仕とは何かをもう一度見直すためにロータリー入門書を再読し、要点を発表します。先輩方には当たり前のことだと思いますが新人のためと思って時間を費やすことをお許しください。

ロータリーは社会奉仕をする団体であると一般には受け取られ、ロータリアン自身もそう考えている向きが多い。したがって、社会奉仕が重視されているのであるからはっきりとした信念を持って取り組む必要がある。しかし、社会奉仕となるとあまりに範囲が広すぎていわばどこから手を付けていいかわからない。また、ロータリアンの数、資力にも限界がある。

従来は、ロータリークラブの集団活動より、ロータリアンの個人的活動の方がロータリーの精神に合致しているし社会的な指導力・影響力も大きいので、ロータリークラブの社会奉仕活

例会行事 続き

動は、ロータリアンを奉仕という点で訓練し実習させるものと考えべきであるとされてきました。すなわち、社会奉仕活動それ自体に目的があるというよりは、奉仕の意義や仕方を学んだロータリアンが、各々の活動の中で社会奉仕活動をし、指導力を発揮するなどしてより良い社会をつくる先達になって欲しいということでした。

この趣旨により、ロータリークラブを訓練機関ととらえ、役員を1年交代とすることで、全会員にいろいろな勉強の機会を与えるということになっています。

また、寄付することを目的とした団体は多額の寄付ができますが、ロータリークラブは寄付物件や金額の多寡ではなく、会員がいかにか奉仕的な生活をし社会に奉仕という点で社会の指導者になっているかということです。

また、ロータリーの社会奉仕の目標はその年度内で完了することを原則としてきました。これは、訓練という立場もありますが、社会は年々変化することから、過去には良かったものが今では意義を失っているとか、視野を広める必要があるとか、役員交代の意味がなくなるとか、マンネリ化を避ける必要からであります。

しかし、ロータリーが大きな発展を遂げ、ロータリーの奉仕に対する世の中の期待が高まるにつれ、奉仕活動にも継続性が要求されるようになり、1999-2000年のカルロ・ラビツァRI会長は奉仕活動の継続性も重要だと述べられるようになりました。

こうした主旨から、奉仕活動はいかに進めるべきかが見えてきます。

まず、地域社会における奉仕の必要性を調査します。こうした社会問題については既に官公庁や関連する機関があるはずですので、そこに訪問し聞き取りを行い、何等かのネックがあれば、その解決に助力します。すなわち、すぐお金を出すのではなく、行動で奉仕し、緊急な必要がある場合や寄付が必要なとき、はじめてお金をだすのです。

漫然とした思い付きや、右へならへで金品を贈ったのではロータリーの奉仕活動にはなりません。

また、クラブの独立性ということも強調されています。ロータリークラブが地元地域に立脚して組織されている以上、地域社会を重視することは当然であり、自分の地域に向かって独自の奉仕計画を立てるということです。

この点に関しては、ロータリーへの世間の期待も高まってきた今日、次第に大規模な集団的

例会行事 続き

奉仕活動も求められるようになり、目的達成のために他団体と協力することも奨励されるようになってきています。

以上が、ロータリーの社会奉仕活動の基本というべきものであり、私たちもこの基本を踏まえ、奉仕活動に取り組んでいくべきものと考えます。

今日は、違った視点で斬新な奉仕活動をされた多治見リバーサイドクラブの婚活プロジェクトを紹介します。

窯業の低迷を一因とする地域の若者の未婚率が高いことに懸念を抱き、ロータリーが率先して婚活を支援する試み目新しい奉仕活動であると言えます。当クラブにも参考になると思いテーマに取り上げてみました。

次回例会のご案内

第1516回 例会 11月27日(水)

バズ例会

クラブフォーラム(7)

担当者：会長・幹事

会報・広報 11月担当 早川 悟史